

パリだより：ユネスコ日本大使からの手紙（第7号）

「戦後80年、ユネスコ憲章80年を迎えて」

2025年1月31日

ユネスコ日本大使の加納です。新年明けましておめでとうございます。

年末年始はいかがお過ごしだったでしょうか。令和七年（2025年）が皆様方にとって実り多い年になることをお祈り申し上げます。

1月になって徐々に日が長くなっていると感じますが、この時期は朝はまだまだ暗く、霧がかかっている日には、エッフェル塔の上半分が見えなくなる日もあります。



1月の朝のエッフェル塔

日本政府代表部は1月6日から仕事始めでした。また、新しい年を迎えるにあたり、今年の抱負を綴ったメッセージを代表部のホームページに掲載しました。<https://www.unesco.emb-japan.go.jp/files/100778407.pdf>

よろしければご覧いただければ幸いです。

ちなみに1月6日はキリスト教（カトリック）の公現祭（épiphanie）の日、東方からベツレヘムを訪れた三博士へのイエスの「顕現」を祝う日です。フランスのガレット・デ・ロワ（galette des rois）を食べる日と言った方が馴染みがあるかも知れません。この慣習はフランスでは14世紀頃からあるそうですが、1月のうちは、パリの街中の至る所のパン屋でガレット・デ・ロワを見かけます。中にアーモンドクリームの入った黄金色の平らな円形のパイは、確かに徐々に増してきた太陽の光を思わせるものがあります。



ガレット・デ・ロワ

（ユネスコ邦人職員との賀詞交換会）

1月16日には、ユネスコで勤務する日本人職員の方々をお招きし、恒例の新年賀詞交換会を開催しました。

ユネスコには50名の日本人職員の方々が働いています。他の国際機関に比べても日本人職員の比率は高く、また女性職員の割合が高いのが特徴です。今後の課題は、加盟国との接点が多く、意思決定に携わる幹部ポストに意欲ある方々が就くのを後押しすることです。

ユネスコ日本人職員の方々を前に、私からは、国際公務員と日本政府職員とで立場は異なるものの、同じ日本人として、日本と国際社会全体の利益のために協力していきましようかと挨拶しました。



ユネスコ邦人職員との新年賀詞交換会

なお、これら日本人職員の方々には、自らが今の職業を目指したきっかけ、現在の職務内容について綴った一文を日本政府代表部ホームページに寄せて頂いています。ユネスコでの勤務にご関心のある方はぜひご覧ください。

https://www.unesco.emb-japan.go.jp/itpr_ja/japanese_staff_article_main.html

(アズレー事務局長主催新年レセプション)

1月21日には、恒例のアズレー事務局長主催による各国政府代表を招いたレセプションが開催されました。今年秋には次の事務局長選挙がありますので、2期8年目を迎えたアズレー事務局長にとっては最後の新年レセプションです。

アズレー事務局長は挨拶で、残された任期における抱負を述べましたが、ウクライナや中東など紛争地域での対応や、教育、科学、文化、コミュニケーション・情報などユネスコの各分野での活動、アメリカ新政権との関係構築など、多くの課題があります。

レセプションにおいて私もアズレー事務局長と言葉を交わし、今年も緊密に連携していくことを確認しました。



新年レセプションでのアズレー事務局長との懇談

（「伝統的酒造り」無形文化遺産登録記念レセプション）

１月３１日には、昨年１２月に「伝統的酒造り」が無形文化遺産に登録されたことを記念するレセプションを、パリ日本文化会館にて開催しました。

今年の旧暦での正月は１月２９日ということもあり、新年のお祝いを兼ねた形で行い、お正月の定番であるお雑煮や、おせち料理も提供しました。２０１３年に「和食：日本人の伝統的食文化」が無形文化遺産に登録された際、その意義として日本人の食文化が年中行事に密接に関わっていることが謳われており、おせち料理はその代表例です。また、今年４月１３日には大阪・関西万博が始まることから、大阪のＢ級グルメの代表格である、たこ焼きも登場。出席者には多種多様な日本の食文化を堪能してもらいました。



「伝統的造り」無形文化遺産登録記念レセプション

（戦後８０年、ユネスコ憲章８０年）

今年は第二次世界大戦終結８０周年であり、幾つもの８０周年の節目の日が巡ってきます。日本の関係で言えば、東京大空襲、沖縄戦終結、広島と長崎への原爆投下、そして８月１５日があります。世界を見渡せばより多くの「８０周年」があるでしょう。

１月２７日は、アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所が解放されて８０周年です。１月２３日にはユネスコでも記念式典が行われました。アズレー事務局長他の挨拶に続き、ホロコーストの生存者の方々からの証言を聞く機会もありました。



アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所解放８０周年記念式典での生存者の証言

私自身は、３０年以上前の１９９２年の夏、車でドイツからチェコスロヴァキア（当時）を経てポーランドのクラカウに行った際、一度現地を訪れたことがあります。有名な ARBEIT MACHT FREI の標語のついた門をはじめ、数々の展示品を見て衝撃を受けましたが、その際の記憶が蘇ってきました。

当時は、冷戦終結後間もなくソ連も消滅。グローバリゼーションが進む中で、いずれは民主主義と市場経済が世界に浸透していくだろうとの楽観論が溢れていたポスト冷戦時代でした。

戦後８０周年を迎えた今、そのポスト冷戦時代も終わりましたが、戦火が欧州、中東などで続き、世界はますます不確実性が高まっているように思われます。同じく８０周年を迎えるユネスコ憲章の精神を噛み締めながら、今年一年、ユネスコでの外交に取り組んでいく決意を新たにしました。

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

本年も、パリだよりをよろしく願いいたします。

ユネスコ日本政府代表部大使

加納雄大